

平成 24 年 4 月 2 日

各 位

会 社 名 株式会社アイフィスジャパン
代表者名 代表取締役 大沢 和春
(コード番号：7833 東証マザーズ)
問合せ先 取締役管理担当 野口 祥吾
(TEL . 03 - 6825 - 1250)

**当社の連結子会社株式会社キャピタル・アイによる
『キャピタル・アイ Awards』の選出に関するお知らせ**

当社の連結子会社であり、金融のプロ向けリアルタイム情報サービスを提供する株式会社キャピタル・アイ（本社：東京都千代田区 代表取締役：高田一子）は、資本市場で実施されたファイナンスのなかで最も優れた案件や発行体を選出する『キャピタル・アイ Awards』を発表いたしましたのでお知らせいたします。

『キャピタル・アイ Awards』は資本市場で実施されたファイナンスのなかで最も優れた案件は何か、発行体は誰か、普通社債、財投機関債、地方債、サムライ債、外債（日本企業による海外発行債）、証券化、新規公開株式、既公開株式、不動産投資信託（J-REIT）、転換社債型新株予約権付社債（CB）の各部門にわたって市場にとって意義があったか、市場の発展や活性化に資するかなどの観点で選出し、表彰するものです。

現時点で本件が当社グループの当期の業績に与える影響は軽微であると考えております。

以 上

2012年4月2日

報道関係者各位

株式会社キャピタル・アイ

◎BEST DEALS OF 2011 を選出：
復興銘柄がずらり、SB で日産/PO で太平洋セメント

キャピタルアイ・ニュースは2日、キャピタル・アイ Awards“BEST DEALS OF 2011”と“BEST ISSUERS OF 2011”を発表した。引受証券会社と機関投資家へのアンケートをもとに編集部審査を加え、2011年度の債券・株式発行市場における優良案件・発行体を選出した。

前年度末に巨大地震があったことを受け、Debt部門を中心に復興案件と言えるディールに評価が集まった。普通社債部門の日産自動車債、三菱商事債、新日本製鉄債、財投機関債等部門の日本政策投資銀行債、地方債等部門の福岡県20年債、証券化部門の住宅金融支援機構月次債は、いずれも震災後に一旦失われた水準を、新発債の発行条件によって示し、市場再生の象徴となった。国際協力銀行債は、日本の発行体が健在であることを国際市場に認識させた。

また普通社債特別賞の東北電力債は、東京電力の原子力発電所事故によって電力債の発行が止まるなか、被害を受けた施設を復旧する資金の調達のため、原発保有の電力として初めて起債に踏み切った。既公開株式部門の太平洋セメントは、復興事業という資金使途が市場の共感を集め、KDDIは原発事故の賠償費用の捻出に苦しむ東電から自己株式を取得するためにリキャップ型ユーロ円CBを発行した。

新規公開株式部門のネクソンとイーブックイニシアティブジャパンは、オンライン・ビジネス、電子書籍という成長分野を手掛ける企業で、IPO市場を活性化。既公開株式部門のツガミも、急速に普及しているスマートフォン市場への参入という資金使途が歓迎された。

住宅機構の月次債は一般債として過去最大。武田薬品工業債は年度最大のコーポレート物のSBで、M&Aのファイナンス手段としてSBを選択したことに注目が集まった。東京都は5年連続、日産は3年連続、ソフトバンクと産業ファンド投資法人は2年連続の受賞。

以下が授賞リスト(〈〉内は主幹事、日付は条件決定日/決議日)。

普通社債部門

BEST DEAL OF 2011

第 54 回日産自動車債 4 月 22 日 5 年 700 億円

〈SMBC日興/みずほ/シティグループ〉

震災から約 1 ヶ月半という信用リスクへの不安が強かったタイミングに、コーポレート物の起債を真っ先に成功させ、後続の発行に道筋をつけた。自動車セクター全般でサプライチェーン問題が懸念された環境下で、シングル A 格の同社が先陣を切った意義は大きい。市場との対話を経て適正な水準の形成に取り組み、700 億円が円滑に消化された。

BEST DEAL OF 2011 2 位

第 76 回三菱商事債 5 月 17 日 10 年 500 億円

〈三菱UFJモルガン・スタンレー/みずほ/SMBC日興/大和キャピタル・マーケット/野村〉

BEST DEALS OF 2011 2 位

第 66 回新日本製鉄債 5 月 17 日 5 年 100 億円

〈大和キャピタル・マーケット〉

第 67 回新日本製鉄債 5 月 17 日 10 年 300 億円

〈野村/ゴールドマン・サックス〉

三菱商事債と新日鉄債は、震災後に電力債が途絶えていたなかで最初にダブル A 格の水準を示し、後続の指標を築いた同日の案件。いずれも 10 年ゾーンをまとまったサイズで起債し、社債市場の本格的な復興を印象付けた。三菱商事債は、主幹事を日系 5 社で固めるなど万全の体制で起債に臨んだ。震災前に比肩する水準でのローンチ・スプレッドを実現したことにより、オファーとビッドが乖離していた流通市場の価格形成機能の回復にも寄与した。新日鉄債は、いち早い登場によって電力債に代わる投資対象を待ち望んでいた投資家の需要を集めた。5/10 年の 2 本立てとしたことで幅広い層の参加を促した。

BEST DEALS OF 2011 2 位

第 11 回武田薬品工業債 3 月 13 日 4 年 700 億円

第 12 回武田薬品工業債 3 月 13 日 5 年 600 億円

第 13 回武田薬品工業債 3 月 13 日 6 年 600 億円

〈野村/SMBC日興/三菱UFJモルガン・スタンレー/大和キャピタル・マーケット〉

ナイコメッド社の買収資金のリファイナンス案件。M&A という前向きな起債目的と 37 年ぶりの希少性、R & I でダブル A プラスという信用力の高さから人気化した。今年度の事業会社のホールセール債では最大の総額 1900 億円を、年限の近接した中期債のみで集めるという難しい起債だったが、大幅な超過需要となった。

特別賞

第 459 回東北電力債 3 月 2 日 5 年 500 億円

〈野村／大和キャピタル・マーケッツ〉

第 460 回東北電力債 3 月 2 日 10 年 100 億円

〈みずほ〉

東日本大震災後、原子力発電所を保有する電力会社による初めての起債。震災に加えて 7 月の新潟・福島豪雨の被害の復旧資金の調達のため、先陣を切った。慎重な投資家が多いなか水準感を探り、総額 600 億円の需要を喚起。今後に復活が見込まれるほかの電力債を検討するうえでの素地を作った。

特別賞

第 1 回五洋建設債 10 月 19 日 3 年 100 億円

〈みずほ〉

トリプル B 格かつゼネコンの初回債という居所が不明ななかでの起債。欧州ソブリン問題でクレジットリスクが警戒される状況にあって、海洋土木の国内トップ企業という強みをアピールしつつ丁寧なマーケティングで年金勢の目線をしっかりと捉えた。クーポンは 1.25%と、2%台だった前年度の長期借入金の平均金利を大幅に下回った。

BEST ISSUER OF 2011

ソフトバンク

前年度に続く受賞。2011 年度はリテール債 1 本とホールセール債 2 本で総額 1800 億円を供給した。2011 年 2 月のシングル A 格への復帰に続いて、当年度には“外格”でも投資適格級となり、日本銀行の社債買入れオペの対象に。2012 年 1 月の 2 年債ではオペ絡みの需要によって L フラットを実現し、戦略的に利払いコストを抑えた。9 月には 2000 億円の優先出資証券も発行した。

財投機関債等部門

BEST DEALS OF 2011

第 12 回日本政策投資銀行債 4 月 8 日 3 年 300 億円

第 13 回日本政策投資銀行債 4 月 8 日 5 年 300 億円

〈みずほ／三菱UFJモルガン・スタンレー／SMBC日興〉

BEST ISSUER OF 2011

日本政策投資銀行

震災から間もない 4 月 8 日、市場の不透明感が強かった時期に他に先駆けて起債を再開。入念な準備と投資家の需要を精緻に見極めた適正なプライシングで総額 600 億円が円滑に消化され、このカテゴリーの復興に大きく貢献した。当年度は同時にベストイシューも受賞。今年 1 月の起債(第 20~21 回)では、起債環境の悪化に対応し、率先してスプレッドの調整を行い、財投機関債の新たな目線を作り上げた。横並び意識の強い発行体が多いなか、節目で手本を示した。

地方債等部門

BEST DEAL OF 2011

平成 23 年度第 1 回福岡県債 5 月 13 日 20 年 200 億円

〈三菱UFJモルガン・スタンレー／クレディ・スイス／大和キャピタル・マーケット〉

震災後初の 20 年物地方債として、この市場が健在であることを示した。4 月債でほかの年限がタイト化していたことや、国債+8bp 台だった震災前の銘柄などとのバランスがとられ、投資家の声を反映したプライシングだった。発行額の 4 倍の需要を創出し、後続銘柄の指標となった。

特別賞

平成 23 年度第 1 回福島県債 11 月 9 日 10 年 100 億円

〈幹事：東邦銀行／みずほコーポレート銀行／大和キャピタル・マーケット〉

東日本大震災で甚大な被害を受けた公募団体のなかで、震災後最初に起債を実現した。プレマーケティングの加重平均を踏まえて他銘柄から 0.5bp を上乗せしたスプレッドで条件決定し、散逸していた目線を集約する役割を果たした。後続の被災団体に発行の道筋をつけた意義は大きい。

BEST ISSUER OF 2011

東京都

半年ぶりで震災後初の 30 年債を発行し、レアな年限である 7 年債を継続。需要が弱いにも関わらず年度を通じて修正されなかった 5 年債の発行スプレッドを 3 月にワイド化させた。量・質ともに地方債のリーダーに相応しく、地方債のみならず一般債全般への影響まで見据えた起債姿勢は全ての年限で貫かれており、市場からの信頼が厚い。また、4 年ぶりに外債も発行した。

サムライ債部門

BEST DEALS OF 2011

第 13 回ラボバンク債	11 月 8 日	3 年	119 億円
第 14 回ラボバンク債	11 月 8 日	5 年	677 億円
変動第 10 回ラボバンク債	11 月 8 日	3 年	54 億円
変動第 11 回ラボバンク債	11 月 8 日	5 年	45 億円

〈大和キャピタル・マーケット／みずほ／野村〉

BEST ISSUER OF 2011

ラボバンク

前年度に続くベストイシューーとなり、ベストディールも獲得。当年度は上期と下期で総額 1667 億円を供給した。11 月の 4 本立て債では、欧州ソブリン問題の悪化で欧州物への警戒感が強まるなか、マーケティングに 1 週間強を費やしたうえで 900 億円近い需要を獲得し、後続案件に良好な流れを作った。ベンチマーク的存在であることは誰もが認めるところだが、サムライ債市場における“最強”の地位が揺るぎないものであることがこの起債で証明された。

証券化部門

BEST DEAL OF 2011

第 48 回住宅金融支援機構債 4 月 22 日 35 年 5143 億円
〈野村／みずほ／三菱UFJモルガン・スタンレー〉

一般債市場で過去最大の 5143 億円というメガディールを震災から 1 ヶ月余りの時期に成功させ、発行市場の回復を強く印象づけた。3 月債に比べ、国債対比で 1bp、OAS で 1bp 程度タイト化したスプレッドを示し、価格の連続性を維持しつつ大幅な超過需要を集めた。

外債部門

BEST DEAL OF 2011

国際協力銀行 グローバルドル債 5 月 11 日 5 年 20 億ドル
〈バンクオブアメリカ・メリルリンチ／バークレイズ／シティグループ／HSBC〉

東日本大震災とそれに伴う財政悪化懸念でソプリング付けの見直し変更というイベント後初の起債。日本物に対するスプレッド目線が定まらないなか、国を代表するグローバル銘柄として国際市場に登場し、知名度の高さを背景に発行体の 5 年債としては過去最大規模の 20 億ドルが円滑に消化された。本邦銘柄の復興を見事に果たした。

特別賞

東京都 ユーロドル債 1 月 18 日 5 年 6 億 5000 万ドル
〈バンクオブアメリカ・メリルリンチ／ドイツ〉

本邦地方公共団体による初の非政府保証ドル債。発行体にとっては 4 年ぶりの外債だった。欧州要因でボラタイルになるなか、市場が落ち着いたタイミングを機動的に捉えて登場。政府保証債に次ぐ高い信用力が歓迎され、発行額を上回る 8 億ドルの需要を獲得した。

BEST ISSUER OF 2011

三井住友銀行

本邦民間ネームとしては年度で最大の総額 50 億ドルを供給。2 月にはドル建てで初めて劣後債を発行するなど年限やスキームを変えて起債し、投資家層を拡大した。欧米銘柄がボラタイルななかでも、安定的に推移してきたことへの評価は高く、国際市場における“SMBC”のプレゼンスは確実に向上している。

新規公開株式 公募・売出部門

BEST DEAL OF 2011

ネクソン 12 月 14 日上場 公募・売出：7010 万株 911 億 3000 万円
〈グローバル・コーディネーター：野村／モルガン・スタンレーMUFG／ゴールドマン・サックス
主幹事：野村／モルガン・スタンレー／ゴールドマン・サックス／バークレイズ〉

当年度の最大案件。韓国系オンラインゲーム大手として国内外の幅広い投資家層から大きな関心を集めた。不透明な相場環境のなか、参入障壁の高いビジネスモデルによる利益率の高さやグローバルでの成長持続力といった魅力が評価され、閉塞感を打破したい市場の期待に応えた。

BEST ISSUER OF 2011

該当なし

転換社債型新株予約権付社債部門

BEST DEAL OF 2011

KDDI ユーロ円 CB

11月28日

4年

2000億円

〈大和キャピタル・マーケットヨーロッパ〉

東京電力が保有する自己株式を取得する目的で発行されたが、CBの発行市場が世界的に低調な環境下で、投資家に配慮しつつ2000億円もの大型案件を円滑に執行した機動性に評価が集中した。久々の大型案件は市場に活気を与え、後続案件に道を開いた。リキャップCBとしては過去最大。

BEST ISSUER OF 2011

該当なし

■キャピタル・アイ Awards とは:

当年度の資本市場でなされたファイナンスのなかで最も優れた案件は何か、発行体は誰か、普通社債、財投機関債、地方債、サムライ債、外債(日本企業による海外発行債)、証券化、新規公開株式、既公開株式、不動産投資信託証券(J-REIT)、転換社債型新株予約権付社債(CB)の各部門にわたって引受証券会社と機関投資家へアンケートを実施。回答をもとに、市場に円滑に受け入れられたか、市場にとって意義があったか、市場の発展や活性化に資するかなどの観点で編集部が選出し、表彰する。

◆株式会社キャピタル・アイについて

代表者:代表取締役 高田 一子

所在地:東京都千代田区九段北 1-12-3 井門九段北ビル 4階

設立:2006年7月

資本金:8千万円(2007年11月30日現在)

主な事業の内容:金融市場に関するオンライン情報サービス

金融専門誌や関連書籍の製作・発行

【債券・株式資本市場のプロフェッショナル向けリアルタイム情報サービス「キャピタルアイ・ニュース」を提供しています。債券分野では普通社債、財投機関債、政府保証債など債券発行市場を幅広くカバーし、一般債セカンダリー市場やCDS市場、CP市場などのニュースも配信しています。株式分野では株式、不動産投資信託証券、転換社債型新株予約権付社債のほか、M&A関連や貸株の市場動向などを報道しています。】

ホームページ:<http://news.c-eye.ne.jp/info/>

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社キャピタル・アイ

広報担当:桜井由佳 03-6826-4710